

101 回「佐久ひとときカフェ」に参加して

佐久市臼田 井出 秀子さん

この日のカフェは講師として中村あゆみさん(abn制作ディレクター)をお呼びして開催されました。「日ごろの出会いを大切に」と日々思っているのですが、がんイコール死と思っている私(古い考えとわかってはいますが)は検査をあまり受けないまま八十才になり。カフェに出席しようか一寸迷っていましたが、一歩踏み出してみても長野朝日放送のディレクター、中村あゆみ先生の話聞くことが出来、番組制作への情熱とお若いのにしっかりした人生設計のもとに生活しているんだと感動しました。

佐久病院は目の前にあって当たり前で過ごして来ました。木造の建物から今では全国の佐久病院までに高名を馳せて、故若月俊一先生の偉大さは佐久市臼田町の誇りです。「佐久の皆さんは幸せですよ」と、中村あゆみ先生のお言葉が耳に残りました。

講演後、参加者ひとりひとりのマイクから聞こえてくる生の声に、また笑顔で話されているその姿に感動しました。自分の番が近づいてくると心臓がドキドキ、主人が逝ってすでに二年になりますが、日が経つにつれ寂しく不安になってくるものだとわかりました。

主人が病気になる、そんな中で中学校の同級生の方が何回となく顔を出してくれました。主人は勿論、わたしも本当に嬉しかったです。在宅医療で訪問して下さる主治医の先生、看護師さんにも頭がさがりました。先生とは学校が同じだと分かって友達のようになり若い看護師さんとは笑ったりして話はずみ、主人は楽しそうでした。日に日に進んでいく病気を認めていかなければならない苦しみはありましたが、痛いという事は一度も云わなかったのだから救いでした。「長いことありがとう！」と大きな声で、それが最期の言葉でした。

家からすぐの「うすだ健康館」で星野先生ご夫妻が「歌声喫茶」を開いて下さっています。歌うと気持ちがすっきりします。また、趣味の会で仲良しになったお友達もいて今は幸せです。これからはお世話になった方々に少しでもお返しが出来ればと思っています。

佐久市臼田 井出 淑子さん

すでに百回を数えているという「佐久ひとときカフェ」に初めて参加させて頂きました。友人の星野昭江さんの地道に歩み続ける姿に本当に頭が下がります。

がんという病気に向き合う中で本人は勿論のこと、家族も周りの人も励まし励まされながら前を向いて、生きて行く姿勢を学習しているんだなと感じました。苦しみも悩みも楽しみも分かち合える場なんですね。

私も夫のがんに直面しました。10時間以上に及ぶ大手術、その後の不安にどう向き合っていたらよいか苦しむ日々でしたが、幸い夫の前向きの姿勢と周りの皆さんのお力を頂くことで何とか今に至っています。

会を重ね続ける「佐久のひとときカフェ」は人と人が関わりながら、良い「生き方」を探している素晴らしいカフェですね。私にとって刺激された良い一日となりました。

100 回記念「佐久ひとときカフェ」
カフェスタッフ 丸山 範子

10月5日で「佐久ひとときカフェ」は記念すべき100回目でした。この日はあえて特別なことはせず「がん哲学カフェを田中さんに知ってもらうために」いつもの通りのカフェをし、毎日新聞の四コマ漫画「あんずちゃん」を連載されている田中しょうさんをお迎えして「漫画を描かれている田中さんの考えるユーモア」についてお話しをしていただきました。

田中しょうさん。実は人見知りで人前で話をする事を苦手としているため「ひとときカフェ」の依頼も初めは断られていました。が、スタッフの熱心なラブコールに応えてくださり、お話しする事が苦手、ユーモアと自分は掛け離れていると仰りながらも一生懸命にお話しをされたその姿は真面目で優しいお人柄を表していました。「あんずちゃん誕生秘話」、「毎日連載し続けるがための苦労話」など、人前に滅多に出られない田中さんの世には知られていないお話を余すことなく聞くことができ、田中さん自身がそのままあたたかなユーモアなんだと感じました。参加したみなさんと笑いが絶えないとても素敵な温かな楽しいカフェになりました。

100 回記念 佐久市創錬センターにて (10月5日)



101 回 Cafe 佐久市うすだ健康館 (11月2日)



<編集後記>

私たちの「佐久ひとときカフェ」がいつのまにか100回を迎えた。毎月、カフェだよりを出し続けていて、ふと上段の日付とNoののところを見たら「あれ、100回だ」と気づいたくらい。2011年の1月にスタートして、今、令和元年の師走……、「おお、ああ！」である。 星野 昭江

「がんと生きる 言葉の処方箋」上映会
 メディカル・ヴィレッジ in 嬭恋 中川 みつ子

映画上映会・がんと生きる言葉の処方箋
 ドキュメンタリー映画 / 上映時間 90 分

「がんにも罹っても明るく生きる人々がいる。そこには心を癒やす言葉の処方箋が溢れていた。」

プロデューサーからのメッセージ
 希冀を感じてもらえればこの上なく幸いです。 田寺順史郎

「がんにも罹っても明るく生きる人々がいる。そこには心を癒やす言葉の処方箋が溢れていた。」

日 時：11月30日(土) 主 催：がん哲学外来サロン嬭恋上映実行委員会
 第一回目：開場 13時・上映 13時30分 代 表 者：市村 雅昭
 第二回目：開場 17時30分・上映 18時 後 援：嬭恋村・嬭恋村社会福祉協議会
 場 所：嬭恋会館 一般社団法人がん哲学外来
 料 金：500円(当日入場可・500円) お問合せ：がん哲学外来サロン嬭恋
 高校生以下無料 TEL：090-4960-3782 (市村 雅昭)

万座温泉に大集合！ 2020年 3/14~15
 がん哲学外来カフェ in 万座 市村 雅昭

来年3月14日~15日。万座温泉「日進館」にて「がん哲学外来・シンポジウム・カフェ」を行う予定です。樋野先生を始め皆様方には日ごろのお忙しい日常を少し離れて頂き、非日常の世界である万座温泉にてリラックスのひと時をお過ごし頂ければとの思いです。

思えば去年3月に万座温泉日進館にて、万座ミュージカル『Origin of fire~人生ピンチヒッター からっぽの器』を多くの人達による実行委員会のご活躍で好評裡に開催させて頂きました。

また、映画「がんと生きる 言葉の処方箋」の撮影も野澤監督により絶好調で進めて来られ、今年5月の新宿武蔵館での上映を皮切りに、以後、各地でその映画は絶賛されながら今なお続けられています。

さて、撮影時の思い出話を始めとして、スクリーンに映った方々全員と一堂に会して語りあえる場をもてないだろうかとお樋野先生が切望なされていることをお聞きしました。そして樋野先生の誕生日のお祝い、『樋野動物園』記念日お祝いなど、盛り沢山の催しを開催することになりました。3月と言えば、まだ寒さ厳しい万座ですが皆様の熱い思いでイベントを盛り上げて頂きましたら幸いです。ご参加、お待ちしております。

2020年 メディカル・ヴィレッジ in 嬭恋村
 がん哲学外来カフェ in 万座

樋野先生お誕生日お祝い会 & 「がんと生きる言葉の処方箋」出演者懇親会

樋野興夫先生は令和元年(2019年)3月に順天堂大学を退職され同大学の名誉教授になられ、そして新渡戸稲造記念センター長にもご就任されました。それから1年益々のご活躍を願い、2020年3月に万座温泉 日進館で先生のお誕生日会を開催させて頂く運びになりました。そしてお誕生日会と併せて樋野先生が出演されている、今年5月に初上映され全国各地で絶賛されている映画「がんと生きる 言葉の処方箋」のご関係者とするすべての主演者の方々の懇親会の開催をさせて頂きます。

樋野興夫先生
 1954年3月7日、島根県生まれ
 新渡戸稲造記念センター長
 難産奨励会 代表
 順天堂大学 名誉教授
 順天堂大学医学部 病理・腫瘍学 専攻教授
 一般社団法人「がん哲学外来」理事長
 2008年「がん哲学外来」を開設
 医療現場と患者の間にある「隙間」を埋める活動を続けています。

日程 3月14日(土)~15日(日)
場所 万座温泉 日進館
申込み お電話にて宿泊のご予約・参加のお申込みをお願いします。
 また東京から当館までの直行バスもございます。
 料金(ゆけむり館例) 東京=万座
 相部屋 8,000円 往復直行バス利用 5000円
 個室 15,000円
 ご予約、お問合せは ☎ 090-4960-3782 担当：市村

講演 「樋野動物園」開設1周年記念 講演会
 場所：日進館ロビー
 時間：14日 20:20~
 講題『個性と多様性』
 個性と多様性 樋野興夫

カフェ がん哲学外来カフェ in 万座
 場所：シオンの泉
 定員：60名
 開始：15日 10:00~
 「がん哲学外来カフェ」とはがんをはじめとする様々な病と共に生きる為に日々の不安や悩みを皆と話し合える場、それががん哲学外来カフェです。「がんがあっても笑顔を取り戻し、人生を生きる事が出来るように支援したい」と願う、樋野先生によって発足されました。日進館では温泉を通してがんや病に対して何が出来るのかを、皆様と一緒に考え話しあえればと、病を抱える方やそのご家族、医療関係者など様々な方々にご参加をお待ちしております。

スケジュール
 3月14日(土)
 18:00 お祝いの会(宴会)
 20:20 樋野先生講演
 21:20 二次会(会費2000円)
 3月15日(日)
 10:00 がん哲学外来カフェ
 12:00 屋食閉会

一般社団法人 がん哲学外来 http://www.gantetsugaku.org/
 協賛 日進館 Tel279-97-3131 https://www.manza.co.jp/

6月18日、「メディカル・ヴィレッジ in 嬭恋」で『がんと生きる言葉の処方箋』の映画が話題になりました。「嬭恋村でも上映できるといいね」、「11月の福祉大会で上映してもらえないだろうか」の声……。その翌日星野先生から上映に関する資料を送って頂き、それを持って社会福祉協議会に交渉に伺ったところ、すでに上映作品は決まっていたがっかりしました。

ですが、「がんと生きる」を上映したい熱い気持ちは皆さん変わらず、7月16日の打ち合わせ会で「11月30日に嬭恋会館で2回上映する」ことに決定しました。

それからは、実行委員の役割を決め活動を開始しました。村長さんとの交渉、場所の確保、広報記載の依頼、チラシの作成(全戸配布4000枚・回覧用276枚・店頭貼る拡大版6枚)、前売り券(200枚)、プロジェクターの借入、スクリーンの用意(ダブルシート2枚をミシンで縫い合わせた)もしました。

上映会一週間前からは会場に出向きプロジェクターや音声等の調整をしました。また入場者数を把握するために当日券と無料券各50枚ずつを作成。前売り券も当日まで頑張って売りました。

11月30日(土)。上映当日は、社会福祉協議会から3名が駆けつけ会場設営や受付等手助けして下さい準備OKでした。昼の部、夜の部とあわせて150人を超す方々が嬭恋会館に集まってくださり、上映会は大成功でした。寒さ厳しい嬭恋村の会館にぽっと明るい温かい灯がともされた良き日となりました。

<編集後記> 嬭恋会館。映画上映「夜の部」に駆け付けた。身じろぎもせずスクリーンに見入っている村民の皆さん。将に手作りの映画会でした。(星野)